大分合同新聞

キャッシュレス推進

ワークシート

年　　組　　名前

① この記事にある内容に基づき、事業者が 50 万円の関連機器を買ったとします。補助はいくらになりますか。

50 万円の 3 分の 2 は約 33 万円ですが、補助の上限は 15 万円なので答えは 15 万円。

② 別府市が導入促進策を勧めようとする理由を、記事中の言葉を使って端的に書きましょう。

インバウンドにとっての利便性

③ キャッシュレス決済は現金ではなく、どんなものを使って行いますか。例を挙げてみましょう。

クレジットカード、プリペイドカード、スマホなど

別府市

キャッシュレス化推進

地場金融機関が開いたセミナー。ラグビーW杯を控えて、別府市内ではキャッシュレス化に向けた動きが加速している＝26日、別府市

訪日客の決済インフラ整備へ

別府市は、買い物や飲食の支払いに現金を使わない「キャッシュレス（非現金）決済」の普及に向けて、事業者が関連機器を導入する費用の一部を負担する方針を固めた。ラグビーワールドカップ（W杯）が半年後に迫り、インバウンド（訪日外国人客）にとって利便性の高い決済インフラを整えたい考え。金融機関や経済団体も説明会などを開いて事業者に導入を促す。

市が導入費を一部負担

27日に開会する市議会第1回定例会に、関連事業の予算案（750万円）を提出する。1事業者当たり15万円を上限に、購入費の3分の2を補助する方針。市産業政策課は「キャッシュレス対応機器の導入を考えている中小事業者を後押ししたい」とする。

地場金融機関も普及に力を入れている。26日に市内で豊和銀行（大分市）が開いたセミナーには、小売業や飲食店経営者ら約70人が出席。権藤淳頭取が「ターゲットになる国の現状を把握した上で、どの決済や端末を導入すれば自社にとって有益か見極めてほしい」と呼び掛けた。

経済団体も普及に力

クレジットカード会社の担当者は、インバウンドが滞在中にキャッシュレス（カード）決済を利用した割合を調査した結果について説明。全国平均の45％に対し、大分県では13％と大きく下回る現状を示し、「キャッシュレス決済が主流の国もある。機会損失をしている」と指摘した。

別府商工会議所は4月に事業者向けの説明会を開く予定。事業者に端末などの利便性を体感してもらう機会も設けることにしている。同商議所の担当者は「将来の普及に向けて、W杯は事業者が消費者を相手に手応えを確かめられる好機」と話している。

（江藤嘉寿）

（2019 年 2 月 27 日付朝刊別府面）

④ 現金、非現金それぞれのメリット、デメリットを考えてみましょう。皆さんはどちらが好きですか？

平常時、災害時、海外旅行時などいろんな場合を想定してみましょう。